

お年玉

お年玉って何だろうか？
 そう思っ辞典を開いてみました。
 「お年玉」 新年を祝って贈る金品（広辞林）とありました。

もうすこし詳しくしらべてみました。すると次のような事でした。

はじめは神に供えた物を人々に分けあたえることを意味していたようです。そして餅などの食品が多かったようです。それは、正月に家々を訪れる年神様が持って来た物と伝えられていたのです。

近世以降は、贈答の範囲が広がってもの意味とは違って、祝儀として金銭や物品にかわり、子どもや用人に限定するようになったのですが、現在は、主として子どもが対象になってきているようです。

ところで昨年小学生のもらったお年玉の全国平均は、三万円、中学生は、五万円だそうです。

そのお金の使い道は—いささか気になるのですが、子どもたちは案外ガッチリしていて、その多くを貯金しています。

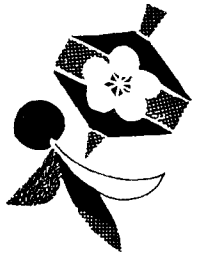
それにしても、我が子がもらったお年玉分は、結局同じように親が、親戚を含めたよその子に出していることになるので大変です。ざっと八万円近いお年玉が出ていくことになりました。

そこで今回は、お年玉をめぐる子どもたちのモノに対する意識について一緒に考えていきたいと思います。

あふれるモノの中で育つ子ども

食べものや食べる場所、日用品おしゃべりやおしゃべりのモノ、レジャー、おけいここと—そういう情報があふれています。そして現実には無いものは無いという時代です。

子どもたちが大人になった時も現在のようモノを使いする便利さやぜいたくさや快適さを、そのまま手にすることが出来るのだろうか。お金を含めてモノを浪費する生活に慣れている子どもたちです。



モノを与えすぎて子どもをダメにしているとしたら、それは大人である私たちの責任なのかもしれません。

人間は豊かさという幸せを求めて一生懸命働き、モノを生産しました。モノがふんだんにあればどんなにか幸せだろうと考えてきました。だから今の子どもは幸せだろう。そう思うかも知れません。それは自分たちの育った時代に、モノがなかったから不幸だったという認識からでしょうか。その実感はまちがっているのでしょうか。

しかし、今、モノがあっても幸せでないかもしれないとか、モノが足りすぎることがかえって人間をダメにするかもしれない。そういう立ち止まりが必要な時ではないでしょうか。

たとえば、ありあまるモノの中で生活している子どもたちは、自分のモノに強い愛着を持たなくなるとか自他の所有物の区別が弱くなるとかということはないでしょうか。

子どもが強い愛着を感じていないためにモノをなくした時、徹底的にさがすことをさせないまま次のモノを買って与えるようなことはないでしょうか。

モノを与えても自信はつきません。日本の子どもは世界一モノを多様に与えられているそうです。

しかし、諸外国の子どもたちより生活や人生に対して自信がないというのです。

大人もそうですが、人間はそれなりの自信が持てないと自分から幸せな気持ちにはなれないのです。自信とは「よし、私にもできる」という実感であったり、「私も役にたつのだな」という実感であったりするのです。

だからふんだんにモノのある中で、モノを与えられたからといって自信にはならないのです。お年玉を含めて、このあふれるモノの中での子育てについても一度考えてみましょう。

ふるさと講演会

市民の会発足一周年を記念してふるさと講演会を開催します。住みよい・住みたくなるふるさとを創造するために多くの市民の皆さまのご参加をお願いします。

期日 1月19日(日)
 時間 午後1時30分～3時
 会場 富士女性センター

講師 天野 建氏(山梨県知事)
 テーマ 「幸住県構想とふるさとづくり」

問合先 S A N T I キャンパス
 ウン都留を創造する市民の会
 事務局 奥 隆行
 ☎(43)3132

いっしょに歌いませんか 合唱団「アコール」 メンバー募集中

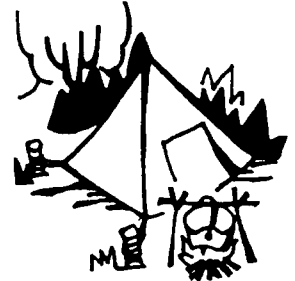


アコールは混声で合唱を楽しもうというグループです。
 「合唱は、初めて」という方大歓迎！

一度、お出かけください。
 練習日 第1・2・3月曜日
 時間 午後8時～9時30分
 練習会場 禾生第一小学校
 音楽室

指揮者 白戸和子
 連絡先 ☎(45)0980 渡辺

ボーイスカウト隊員募集



自然と共に生き、他を思いやる心、自ら考え行動し創造する力を、種々の活動や集会を通して育成することを目指します。

◎ 募集対象

- ビーバー隊(小1・2年)新入学児童約10名
- カブ隊(小3～小5)若干名
- ボーイ隊(小6～中3)若干名

◎ 連絡先

ボーイスカウト都留第一団事務局
 都留市下谷4-1-7 重原 ☎(43)1497

※ 応募締切は2月末日です。